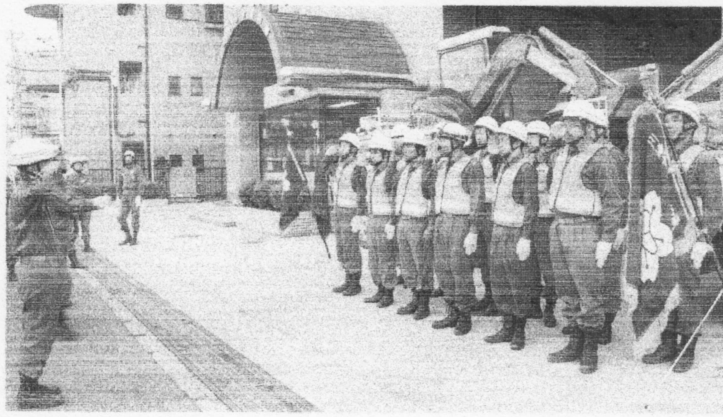


多摩消防団機動部隊 発隊

平成二十三年十一月十八日、多摩消防団は、東日本大震災において指摘された、消防団活動を遂行する上で不備を改善する為に、多摩消防団機動部隊を発足しました。この部隊は井田副団長を統括隊長に、土木・建築関連で、重機操作の資格を持つ十八名の団員により構成されています。

震災被災地の映像で、道路が瓦礫などでふさがれているのを見て、任務を遂行する上で、現地にとどり着けない不安や辛さを感じた団員が多くなりました。多摩区においても、建物の崩壊の他に、多摩川からの津波や上流のダムが決壊など、色々な状況を想定する必要があります。多摩消防団と多摩消防署で協議を重ねて参りました。



消防署長及び多摩消防団長からの出動要請が、発動された場合、瓦礫などを撤去して緊急車両の交通路を確保する事を目的とし、活動をいたします。また、警察署との連携も視野に入れ、被害の最小限化を目標として、日々鍛錬して参ります。

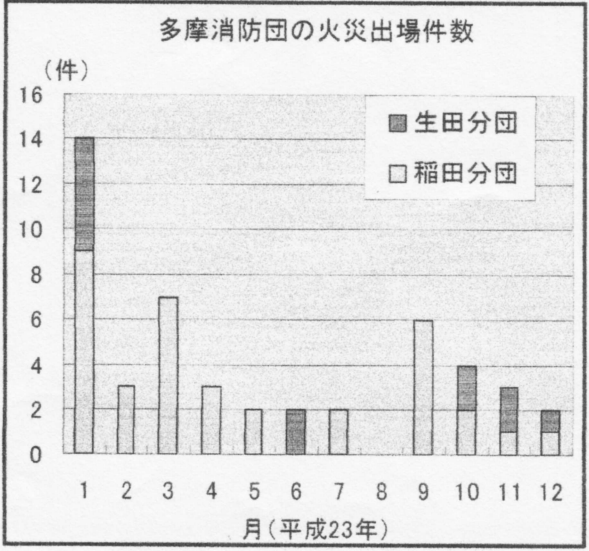


初代隊長の井田哲芳副団長に、松澤団長より辞令が渡された。



設置しましたか？ 住宅用火災警報器

消防法及び川崎市火災予防条例により、平成二十三年六月一日から、全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられ、既に設置しているご家庭に設置されたいです。住宅火災により亡くなられた方の約六割が六十五歳以上の高齢者で、その原因は主に逃げ遅れによるものです。住宅用火災警報器は、熱や煙を感じると警報音や光を点滅させて、火災の発生を知らせるもので、住宅用火災警報器を設置した場合は、設置しない場合に比べて、火災による死者数、焼損面積、被害額が、おおむね半減するとの統計結果が出ています。大切な家族を守るためにも、住宅用火災警報器を設置しましょう。



生田分団 団旗祭

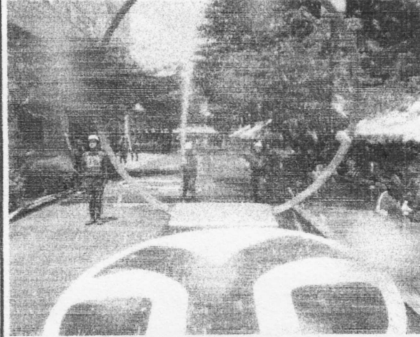
六月二十六日、枳形中学校の校庭にて、生田分団団旗祭が開催されました。各町会関係者や地域の皆様をお招きし、新入団員を加えた体制の披露目として、全体による小隊訓練と、各班による小型ポンプ操法をみていただきました。より一層の安全と、防災の努力をすることを団旗に誓うことで、新しいスタートをきりました。

稲田分団 操法大会

七月三十一日、宮前区犬蔵の消防総合訓練場において、稲田分団操法大会が開催されました。当日は周囲の視線を受けて演技する緊張の中、各チームとも日頃の訓練の成果を十分に発揮する事が出来ました。また、小型ポンプ操法の他に、各班の小隊訓練も披露されました。一週間後に多摩大会を控え、当日の採点担当者も兼ねて、各採点担当者と同分団部長とによる模擬採点を行いました。終了後に渡された採点表を見て、各チームは自分達の操法演技を振り返り、さらなる操法技術の向上を誓いました。

多摩消防団 消防大会

八月七日、明治大学にて、多摩消防団消防大会が行われました。稲田分団5班、生田分団4班の全9班が小型ポンプ操作の競技を行い、中野島班が優勝、登戸班が準優勝、宿河原・堰班が第三位となりました。



小型ポンプ操法とは：指揮者の指示により、ホース延長・ポンプ操作を行い、火点を倒すまでのタイム及び行動を審査する競技です。



優勝 中野島班 班長 石井 元康

今年度優勝することが出来たのは、町会をはじめ、中野島班の先輩方の励ましやご支援を頂いた賜物だと思えます。そして、補欠も含めた選手の日々の努力、指導する班員の熱意、サポートする班員の思い、それらが合わさり、班全体の士気が大会に向け、一つの絆となり、十六日間の厳しい訓練を乗り越えられたのだと思えます。そして、班員の奥様やご家族の影の支えがあり、訓練に集中出来たと思えます。その中で優勝出来たことを誇りに思い、そして、班員全員に感謝しています。

個人最優秀賞

- 指揮者 岸 隆広 (中央生田班)
- 一番員 山田 真也 (東生田班)
- 二番員 吉澤 孝太郎 (中野島班)
- 三番員 井上 貴智 (登戸班)

指揮者 生田分団 中央生田班 岸 隆広

今大会に於いて、最優秀賞に選ばれた事は、大変名誉であり、一選手として誠に光栄に思っています。しかし、指揮者として、選手達の力を十分に発揮させる事が出来なかつた事、班としての結果を残せなかつた事が悔やまれ、改めて指揮者というポジションの難しさ、厳しさも痛感しました。

この経験を活かして、今後の消防活動に役立てていきたいと思つて、連夜の訓練に参加して、大に当日に応援に来て頂き、地域に感謝するのと共に、謝上げます。



一番員 生田分団 東生田班 山田 真也

約三ヶ月に及ぶ訓練では、すべての動作や用語が初めての事で戸惑いましたが、先輩方には丁寧な指導を頂いて、一つ一つの動作を出来るまで何度も練習しました。自宅では小型ポンプ操作のDを繰り返し見て、イメージトレーニングをしまし、消防大会は夜間の訓練とは違い、日中の明るさや周囲の視線を受けて大変光栄です。これからも消防団の一員として頑張りたいと思います。

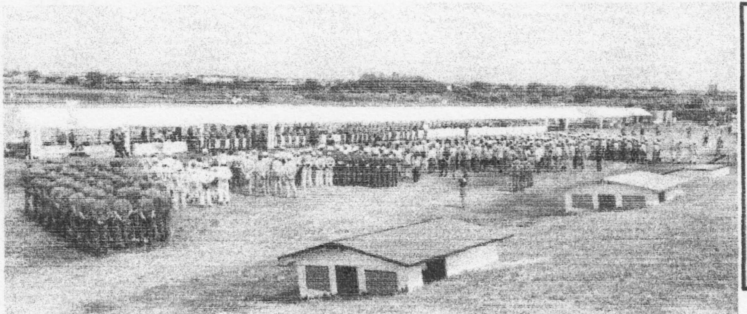
二番員 稲田分団 中野島班 吉澤 孝太郎

二番員として三度目の消防大会出場となり、過去二度の優勝を逃した悔しさをぶつけるつもりで訓練に励んできました。吸管を伸ばす動作から防火水槽への投入の流れを三番員と何度も練習し、その後のロープ、枕木の扱い、鳶び口を持つての走り出しなど、指導員のアドバイスのもと徹底的に取り組みました。念願の優勝と個人優秀賞をいただき、応援してくださったみなさんに良い報告ができたことを誇りに思っています。

三番員 稲田分団 登戸班 井上 貴智

最優秀三番員を頂けた事を大変嬉しく思います。先輩方の指導の元、先輩方を信じて六月中旬からの訓練に夢中になった結果だと思えます。二番員との阿吽の呼吸、可搬の送水圧の調整、自分のモチベーション、なにかとスピードと、トコトンやり込みました。終わってみると達成感で充実していました。

川崎市総合防災訓練



三月十一日に発生した東日本大震災の教訓をふまえ、八月二十八日(日)に「備えよう災害に」を合言葉に、直下型地震を想定し、川崎市総合防災訓練が実施されました。二ヶ領せせらぎ館付近河川敷と稲田中学校を会場にして、区関係各局と共に消防団員約九十名が参加しました。よる初期消火活動や、車両撤去による緊急交通網の確保や、ライフラインの復旧訓練などの防災訓練の一環として行われました。

